

## 平成26年度年度事業へのおさそい

「太秦歴史探訪・散策&ガイド」

[嵐電有栖川駅集合→齋宮神社→車折神社→斉明神社→鹿王院→解散]

### < 「沙羅双樹の<sup>ろくおういん</sup>鹿王院 をたずねる」 >



時 期 6月28日(土)

時 間 10:00~12:00

定 員 30人

参加費 ¥2,000 (保険含む)

(拝観料 ¥400、交通費 別途個人負担)

今回の散策は太秦西コースですがメインは「鹿王院」です。通説では元鹿苑寺と言われておりますが、義満繋がり間違いありませんが鹿苑寺との関連の確証は無い、とご住職は否定されております。

沿革には「康暦元年(1379)、22歳の足利義満(1358~1408)は、夢の中に居士の姿をした多聞天と毘沙門天と高僧の姿をした地藏菩薩が現れて「今の将軍は福も官位も意のままに十分満ち足りている。ここで一カ寺を建立し供養すれば寿命を延ばすことが間違い無い」と語り合うのを聞いた。そこで義満は最も帰依していた五山派の禅僧で天竜寺開山無窓疎石の後継者であった春屋妙葩を開山として、自らの延命を祈願して、現在地に禅刹を建立して覚雄山大福田宝幢禅寺と名付けた」とあります。

今回のメインは庭園南正面のクロモチの後ろにある沙羅双樹の花です。沙羅双樹は釈迦入滅のとき枕元で一斉に花開いたとの伝承があります。双樹とは根元から2本に別れている樹をいう。沙羅双樹は本来亜熱帯地域の植物で日本では生育しないものです。この寺には釈迦ゆかりの品がもう一つ「仏牙舍利」が安置されております。



### 「齋宮神社」

垂仁天皇の皇女倭姫命の別荘地との伝承がある。何時、誰の皇女かは不明ながら、齋王代の禊の場と言われている。有栖川の水で潔斎した。野々宮はトいで決めるため毎回場所が変わる



### 「車折神社」

平安時代の学道の祖「清原 頼業」を祀る  
昭和に入ってから「芸能神社」が有名  
また、境内に「洛柿舎」跡があることは意外と知られていない。

5月の嵐山三船まつりは例 祭の延長神事。春は  
1 2種類の桜が咲く花の名所としても有名。

大正6年（1917）に<sup>あめのうずめのみこと</sup>天宇受売命を、現在の地主神社に非公式に合祀していたが、芸能関係者らのたつての強い要望もあって、昭和32年12月31日、現在地に独立神社として誕生した。芸能の祖神天宇受売命を祭祀ところから総ての芸能上達を祈る人々の篤い崇敬を集めている。



### 「斉明神社」（1606年）

天龍寺塔頭「慈濟院」の鎮守社。  
身舎両妻に棟持柱を建てた神明造で造営資料も  
そろった貴重な建物です。

当所は859年（貞観1）伊勢斎王に卜定された文徳天皇皇女且恬子内親王が、嵯峨の「野の宮」に籠られた際、天照大神を祀って潔斎した旧跡と伝え、それに因んで康永3年（1344）天竜寺二世佛慈禅師（無極志玄）を開基として創建した天竜寺塔頭慈濟院の境内地にあたる。

斎宮神社も斉明神社も禊の跡地、太秦界限は古代史縁の地なのです。

鹿王院終了後現地で解散します。交通機関の最寄りの駅は「嵐電鹿王院駅」が便利です。時間の余裕のある方は付近で一緒に昼食をとりながら歓談の時間を作りたいと思います。

### お問い合わせ & 申し込み

- 担 当 米 澤 まで

☎ 090-1448-2244

FAX 075-864-2498

- 申し込み締め切り 6月25日（水）

キャンセルの時は前日（27日）まで

小雨決行（荒天中止時は当日8時に連絡致します）

# 参加申込書

NPO法人太秦歴史探訪舎

平成26年度年度事業へのおさそい

6月28日(土)

<「沙羅双樹の<sup>ろくおういん</sup>鹿王院 をたずねる」>

お申し込み者 氏 名 \_\_\_\_\_

参加者 氏 名 \_\_\_\_\_  
住 所 \_\_\_\_\_  
年 齢 \_\_\_\_\_ 生年月日 \_\_\_\_\_  
電話番号 \_\_\_\_\_  
当日の連絡先 \_\_\_\_\_

同伴者 氏 名 \_\_\_\_\_  
住 所 \_\_\_\_\_  
年 齢 \_\_\_\_\_ 生年月日 \_\_\_\_\_  
電話番号 \_\_\_\_\_  
当日の連絡先 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

申し込み先 FAX 075-864-2498 米澤まで